2022 年 7 月 28 日(木) 大分合同新聞掲載

命を守るロービジョンケア

いろいろな見え方を通じて　視覚障害の当事者から⑦

私は視覚障害があっても日常生活が困らないように 2021 年 4 月から福岡視力障害センター（福岡市）に通っています。月 1 回の同センターへの通所と週 1 回オンラインで、パソコンやタブレットの最新機器の操作の他、歩行訓練やロービジョン（視覚に障害があって見えない、見えにくい人）ケアの訓練を受け、さまざまなスキルを身に付けています。

パソコンは画面上にマウスの位置を示すカーソルを見つけるのが難しいので、キーボード操作のみで使用できるよう訓練し、スマートフォンを音声で操作する「Voice Over 機能」の習得に励んでいます。歩行訓練は白杖を使っての歩き方やバスの乗り方、階段の上り下りなどを学び、ロービジョンケアでは残っている視野を最大限に活用するため、眼球を動かすことで見えていない部分を補いながら脳に映像として学習させる訓練をしています。

昨年 9 月、センターに来て本当に良かったなと思う出来事がありました。それは、先生に「ロービジョンケアって相手の命を守ることなのだよ」と言われたことです。最初は見る訓練と命を守ることがつながらずに意味が分かりませんでしたが、「視覚障害と診断されて、残念ながら命を落とす方がいる。命あっての視力なんだよ。」と言われ、納得しました。そして、そこまで本気に視覚障害のことを考えてくれている人がいるんだと胸が熱くなりました。

その先生は、センターに行くと「何か変わったことはありませんでしたか」と満面の笑顔で聞いてくれます。視力の変化による日常生活などの影響などではなくて、センターに来るまでの間にメンタルが落ち込んでいないかを気にしてくれているのだと感じます。

「命あっての視力」という言葉の通り、まずは障害とともに生きることが大切なのだと思います。障害の有無に関係なく、生きているだけで素晴らしいことです。障害者の仲間からは「合理的配慮をしてもらえなかった」「こんなひどい目にあった」などと相手が理解してくれないことを悲しむ話を聞きます。しかし、一方でさまざまな形で支援をしてくれる人がいることを忘れてはいけないと思います。

（山元正史、大分県網膜色素変性症協会員）＝随時掲載＝

山元さんのホームページのＱＲコード